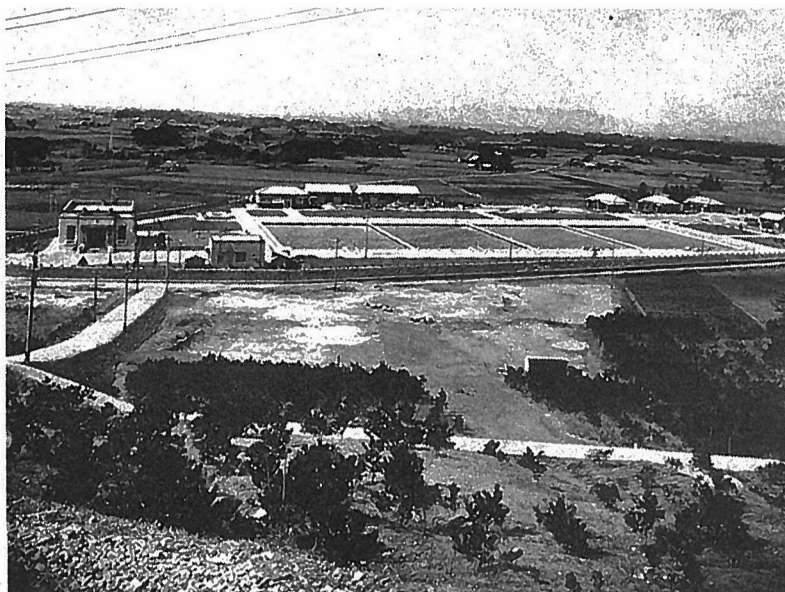


水をつくり届ける

豊橋市上下水道局

「なぜ豊橋市に水道が必要だったのでしょうか？」。今、蛇口から手軽に使うことのできる水道ですが、昔の人たちは深さ数メートルの浅い井戸で地下水をくんで飲み水に



小鷹野浄水場の完成当時の様子

「なぜ豊橋市に水道が必要だったのでしょうか？」。今、蛇口から手軽に使うことのできる水道ですが、昔の人たちは深さ数メートルの浅い井戸で地下水をくんで飲み水に気が増える原因になっていました。

水道をつくり、きれいな水を人々に配ることは、当時、とても大事なことであったのです。豊橋市の水道の歴史は、1912（明治45）年、今の高師地区にあった軍隊へ、きれいな水を配ったことに始まります。

その後、市民にもきれいな水を配るために今の水道が計画されました。

計画は変更されて配水池に近い今の小鷹野に造られることになりました。市民に水を配り始めたのは30（昭和）5年でした。昭和の時代は、戦後復興事業や水道局ができたなど、豊橋市の発展とともに水道も段々と広がりついでにきました。

平成に入ると、今の上下水道局庁舎の建設や、水道水の圧力を調整する

② 水道の歴史

計画は豊川（とよがわ）の近くに緩速ろ過池で豊川の水をきれいにする浄水場をつくり、その水を多米町まで送り、山の上に造った配水池から高さを利用して、自然に流れる力で市内へ配るというものでした。

当時、川の近くに浄水場を建てる計画がありましたが、豊川は大雨により氾濫することが多く、

計画は変更されて配水池に近い今の小鷹野に造られることになりました。市民に水を配り始めたのは30（昭和）5年でした。昭和の時代は、戦後復興事業や水道局ができたなど、豊橋市の発展とともに水道も段々と広がりついでにきました。

平成に入ると、今の上下水道局庁舎の建設や、水道水の圧力を調整する



浄水場にある薬品注入機室

東愛知新聞(令和4年6月3日掲載)

小鷹野浄水場

小鷹野浄水場には水道が始まった当時の建物が残り、国の有形文化財にも登録されています。古いポンプ室（ルネッサン

「なぜ水道が必要だったのか」から歴史を見てみると、安全で安心な水道水をいつでも使える日々は、最初の水道から約100年という長い年月の間に水道の仕事をし

仕組みの導入、地震に強い水道管への取り替えなど、水道水を安定して配り続けられるように施設の整備を続けてきました。

入風建築様式、昭和4年や、今も使用している緩速ろ過池（同）で92年変わらない「水づくり」の見学ができます。また山の上にある多米配水池の展望台からは、豊橋の町が一望できますので、今の豊橋の風景に「水道の歴史」を重ね合わせてみませんか。